

自治会対抗真剣勝負 もうひとつの駅伝。

今年で50回目を迎えた、「川東地区駅伝競走大会」。青山学院の圧倒的な総合優勝で幕を閉じた箱根駅伝の興奮もまだ冷めやらぬ、お正月1月4日に行われた、もうひとつの駅伝大会。



平成27年1月4日、川東（せんとう）地区の自治会対抗駅伝大会、「川東地区駅伝競走大会」が行われた。会場に向かう早朝、車内の温度計は外気温マイナス2度と表示していた。今年の冬は日本列島を何度も寒波が襲い、当日はこれまで一番寒い寒波が到来するということを、前日の夜のニュースで言っていた。会場は、東大友にある上府中公園。ここに川東地区から毎年10の自治会が集まり行われている。川東地区というのはどういう意味かというと、「川の東」つまり小田原市を酒匂川で分けた場合、東側の地区ということなのだ。まるでパリのセーヌ川の左岸、右岸みたいではないか。コースは上府中公園の中からスタートし、公園の外に出て大回りするように走

り、再び公園の中に戻ってきて今度は公園内を一周してスタート地点に戻り次の走者へタスキを渡す一周約3キロ。走者は1チーム4人。年齢の決まりはないが、第一走者は女性でその他は男性、第四走者は2周走るとするのが公式なチームのエントリー資格。つまり、合計15キロを4つの区間に分けて走るということになる。ちなみに、前年までの最高記録は下府中のチームが第48回の時に出した「48分2秒」というタイムだ。今回は10地区から公式チームが14チームエントリー。これ以外にも、人数調整などで、例えば第一走者が男性だったり五人チームで第四走者が2周も走れなくて、5人目を入れて1周ずつ走ったりする非公式記録の「オープン参加」という



右上/参加は橘北、前羽、下曾我、豊川、下府中、酒匂、曾我、国府津、上府中、富士見の10地区。右下/準備運動も真剣。「寒いから体を冷やさないように！」という声が、しきりに色々なところから聞こえていた。左上/記念すべき第50回の優勝は前羽Aチーム！左下/区間賞の表賞も。賞状とメダルが授与される。



川東地区
駅伝競争大会の風景